

佛心

二〇一九年九月号
浄土真宗 本願寺派



サマーキャンプ

正直に言えば先月初旬の一週間は、自分が何日の何曜日を過ごしている

のか分からないでいました。というのも、その一週間をすべてトロント仏教会のサマーキャンプで過ごしていたからです。キャンプには子どもをはじめ、その子たちのお世話をする青年らと身の回りの支度をしてくれた保護者の方々がいました。私は今回で3回目のトロントでのサマーキャンプになりますが、毎年参加してくれる子どもやボランティアの方々の熱量と働きぶりには毎度驚かされま

す。きつと昔からお寺にいられている方の中には、このサマーキャンプに参加された方も多くいるでしょう。そして、この記事を読まれている方でまだお寺のキャンプに参加されていない方もおられるかと思えます。本日は少しこのキャンプを通して私なりに感じ取ったことをお話しできればと思います。

サマーキャンプでは毎年の仏教テーマが作られます。皆さんもご存知のように2019年はトロント・ラブターズがNBAで優勝し『We The North』という言葉が流行りました。そこを文字取って今年のサマーキャンプのテーマは『We The Sangha』となりました。Sangha(サンガ)とは、仏教徒のことを指し、子ども達には「仏様の教えを分かち合い、困ったときや苦しい時に助けてくれる仲間達」というテーマであるとお話しました。

キャンプでは日曜日午後の開会式法要から翌週土曜日の閉会式法要までさまざまな活動(カヤックや合唱、外でのゲーム、ランニング、ミニゴルフ、映画鑑賞、湖水浴、演技発表会など)がなされました。子どもは自分の使った部屋や食器などを責任もって毎日きれいに片付けることを義務づけており、学びの多い日々を過ごしてくれたと思います。また今年の夏には、キャンプで長い間お世話してくれた青年2人の仏前結婚式があったこともあり、子ども達の前で簡易的な仏前結婚式の挙式を行いました。すると子ども達が花嫁のためにトイレットペーパーでウェディングドレスを、コーヒーマイルターでベールを作ってくれ、何とも心暖かい挙式になりました。

さて、毎年恒例の僧侶が子ども達にワークシヨップを行う『Buddhism 101』では、テーマに沿って「サンガ」について行われました。前述したように

サンガとは、仏様の教えに従い習う人たちのことです。そこで私はお釈迦様の人生について、そして仏教において大切な教えである諸行無常と諸法無我についてのお話をさせていただきました。それらのお話の最後で子ども達に幾つかの問いかけをしました「今までの人生の中で何か一つも変わらなかったものを見つけることができずか?」「今までの人生の中で何か一つでも自分一人のものといえる物を見つけることができずか?」と。それらを見つけることはできるのか否か、お釈迦様の教えを通して子ども達の考える機会になってくれればと思います。

そして『Buddhism 102』では、親鸞聖人についてのレクチャーです。何千年もの間多くの人々は、お釈迦様の教えを理解しようと同様な道を歩まれてきました。浄土真宗の宗祖である親鸞聖人もその内の一人です。九歳で仏門に入られた親鸞聖人は比叡山で難行苦行に専念されました。しかし、修行に励めば励むほど救いようの無いわが身の姿が知らされ二十九歳の時に下山されたのです。この時に親鸞聖人は、「定水じょうすいを凝らすといえども識浪しきろうしきりに動き、心月しんげつを観かんずといへども妄雲もううんなほ覆おほふ。しかるに一息追いっそくついがざれば千載せんざいに長く往なく、なんぞ浮生ふじょうの交衆きやうしゆうを食むりて、いたづらけみよらに仮名けみよらの

修学しゅうがくに疲つかれん。しべからく勢利せいりを抛なげうちて

ただちにしゅつり出離ねがを怖おそふべし(嘆徳文…註釈版 P1077)」。比叡ひがいから見える琵琶湖を眺め

「あの湖面のように、なぞこの心は静まらないのか。静めようとすればするほど、散り乱れる。どうして、あの月のように、さどりの月が拝めないのか。次々と、煩惱の群雲でさどりの月を隠してしまう。この一大事をどうしたら解決ができるのか…。」と苦悩を述べられたと言われております。

そして下山した先で念仏の教えを説く法然聖人と出会うこととなりました。その念仏の教えである「南無阿弥陀仏」は、親鸞聖人のこのころに感銘を与え深く根付くこととなります。南無阿弥陀仏のお名号は、親鸞聖人だけでなく様々な因縁の中で生かされてる私たちにもいつでもおはたらきになっています。私たちの口から「南無阿弥陀仏」が出てくるときそれは仏恩報謝の想いからです。そしてそのお名号を通してキャンプの子ども達が一つのサンガとして浄土真宗のみ教えを身近なものとして捉えてもらえればと思います。

仏教は観念的かつ複雑な教えということもあり、大人である私も子どもに話すときは大変苦労します。しかし、それらの苦労を苦労としてではなく仏教理解を深める良い機会として取り組めば、違った形で子ども達ともさらに仏教を身近に感じ取ることが出来ます。もちろん、子ども達からの大変興味深い質問や意見を耳にすると私にとつての勉強にもなります。

この度、トロント仏教会サマーキャンプの企画運営に尽力してくれたお世話役の仏教青年らや子ども達の面倒を見てくれたカウんセララーの子たち、そして毎日美味しく栄養価のあるご飯を作ってくれた保護者さん、そして忙しい合間を縫って来てくれた大内先生にも改めて感謝したいです。

サマーキャンプは、様々な活動を通して仏教を教えてくれる特別な場所です。そして、それはトロント仏教会においても大変特別な場所であり、私にとつても大変意味のある有意義な空間でもありました。もしこの仏心の購読者の中で八歳から十四歳までの子どもを知っている方がいましたら、ぜひ次回から声をかけてあげてください。

合掌

開教使アシスタント

ジョアン 湯浅



秋季彼岸会

トロント仏教会では今月の第三日曜日(15日)12時よりお彼岸の法要をお勤めさせていただきます。「彼岸」とは、季節を表す言葉ではなく、「お浄土」を表す仏教用語です。私たちの住む現実の世界「此岸」から、阿弥陀さまの極楽浄土「彼岸」へ到る道を探っていくことが本来の意味であります。

『阿弥陀経』には、「これより西方、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名けて極楽といふ」とあり、阿弥陀さまの極楽浄土(彼岸)を西の方角で表すようになりました。春秋の彼岸の中日は太陽が真西に沈んでいきます。先人の方々は、この日真西へ沈む夕日に極楽浄土を重ね合わせ、彼岸の日と呼ぶようになったようです。この中日から前後三日をいれた七日間をお彼岸という仏教週間となるのです。

さてカナダに来て3年が経ちましたが、まだまだ英語も仏教も勉強する日々が続いています。ただ本日は、私が宗教学を習い始めた大学生だった頃の話を書かせていただければと思います。

大学生の時に得度資格を受け取り僧侶になったのですが、それからは友人と食事に行っても「お坊さんなら、何か有り難い話をしてよ。」といった要求を何度もされました。若い方と僧侶が法要や儀式を抜きにして面と向かって話すことはなかなかありません。ですから、なおさら「有り難い話し」期待をしてくるわけです。

当時の私は、「一体、有り難い話しって何だろ？」と真面目に考えていたわけですね。ただいくら考えても人生経験の少ない私から「有り難い話し」なんて出てくるわけが無い。そこでお釈迦様の説かれた經典を読んでも予備知識すら無い私にはチンプンカンプンなわけですね。そこで住職である父親に相談してみました。すると父親は、「あたりまえの反対言葉は何だ？」とわざわざしてきました。「当たり前」の反対言葉…、さて何のことかサッパリ分かりません。ここで答えを言ってしまうと、「あたりまえ」の反対言葉は、「あたりがとう」だったのです。

「あたりがとう」を漢字で書くと「有難う（有ることが難しい）」となります。私達日本人から何か良いことをされたときにこの「あたりがとう」という言葉を使います。しかし、普段から当たり前のようにしている、又はされていることに「あたりがとう」とは言われたいし言いたくないことが多々あります。でもよくよく考えてみるとそれから「されたこと」や「してもらったこと」は本当に当たり前のことばかりだったのか。

例えば、ご飯を食べる、これもまた当たり前前のことではありません。米粒一つにしてもここまで運んできた人、ここまで作った人がおられます。そして、それは人だけでなく日の光や土の栄養、雨の恵みなど様々

な背景がそこにはあります。私の友人の家庭では、「ご飯一粒に100の苦労と縁がある」と教えられたと聞いたことがあります。つまりは、ここに今あるご飯も当たり前なことではなく、様々な縁によっていただいた有り難いものだと言えます。そう思うと、わざわざ有り難い話しを聞かなくても、体験として私達の周りには多くの有り難いことが溢れていることに気が付かされません。

お釈迦様は經典の中で「諸行無常」というお言葉を残しています。私はこの「諸行無常」と「あたりがとう」という言葉は大変似てるな、つとと思うときがあります。諸行無常、全てのものは移り変わる。つまりは、決してこの世に永続する当たり前といった物事はなく、全てのものは儂くも尊いものばかりであるということです。それらを感じたときも、私達は「あたりがとう」との言葉を自然と口に出し、感謝の気持ちを表しているのではないのでしょうか。 合掌

駐在開教使 大内祐真

秋のお彼岸法要

9月15日(日曜日) 午前11より

トロント仏教会では今月の第三日曜日(15日)11時よりお彼岸の法要をお勤めさせていただきます。「彼岸」とは、季節を表す言葉ではなく、「お浄土」を表す仏教用語です。私たちの住む現実の世界「此岸」から、阿弥陀さまの極楽浄土「彼岸」へ到る道を尋ねていくことが本来の意味であります。どうぞお気兼ねなくどなた様もご参拝ください。

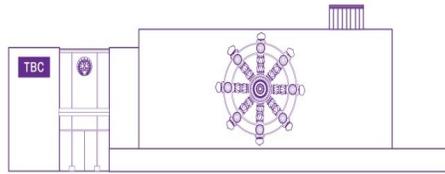
お知らせ！

日本語法要の時間変更

多くのご意見をいただき、9月の祥月法要(第二日曜日)より英語法要と日本語法要の時間を別けてお勤めすることとなりました。9月を除く毎月第一日曜日の祥月法要は以下の時間通りにお勤めされます。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

英語法要：午前11時より

日本語法要：午後1時より



会員登録
新規／更新

オンライン登録
新規／更新

会員登録のお願い

2018年が過ぎ、また2019年度会員登録のお願いの季節になりました。2018年度の会員登録数は対前年比若干減少しましたが、再度増加基調を目指したいと考えます。現在、まだ会員登録をされていない方がおられますが、言うまでもなくトロント仏教会の未来は会員の皆様のサポートに依存しており、ここに今年度の会員登録と会費のお支払いをお願いするものです。

トロント仏教会は常に会員特典の向上をめざしておりますが、ここにいくつかの特典を列記します。

1. トロント仏教会の運営に関する投票権の取得、例えば総代表および各会リーダーの選出、予算の決裁その他トロント仏教会の将来に関する重要な事項等。
2. “the Jodo Shinshu values of the Temple” の定期購読
3. 現行会員による無料公証業務
4. CAA Premium-level の割引
5. トロント仏教会特別行事への参加費用の免除あるいは一部減免
6. Arbour Alliancesの葬儀代割引

一般会員とは各年1月1日から12月31日まで有効ですが、トロント仏教会の会員として活動するにあたり、年初において速やかな会員登録をお願いします。会員登録と会費（\$130）の受理後、会員カードを送付します。

名誉会員とは77歳以上の方で、2019年度会員登録をされた方、あるいはすでに名誉会員であり毎年名誉会員の継続を表明された方に会員カードを送付します。名誉会員は年会費が免除されますが、ご志納はありがたく拝受させていただきます。